

衣川地区振興会だより

新春号

令和8年1月8日発行

感謝とお礼、

そして「すりこ木」の心



衣川地区振興会
会長
高橋 厚

明けましておめでとうございます。
皆さまには穏やかな新年を迎えたこととお慶び申し上げます。

さて、衣川中学校では「地域再生プロジェクト」が今年度で3年目を迎えました。これまで史跡一首坂への花菖蒲植栽やベンチ設置、セミナーハウスの看板設置、ポケットパークや郵便ポストの模様替え、百年残った衣川の景観等々、生徒目線での発案と企画は、どれも斬新で、地域貢献につながる内容であったと感じています。

こうした一連の活動を見るにつけ、改めて子どもたちこそ「衣川の宝」「元氣創造の基」を感じた1年でした。いづれ、子どもたちは社会に巣立っていくことになりませんが、一人でも多く衣川に住み、或いは衣川に戻ってきてくれることを願わざるを得ません。

昨年は昭和100年、戦後80年、市町村合併20年という節目

の年でした。

大正期から戦前・戦中・戦後の衣川に関する2回の企画展は、多くの方々から資料の提供をいただき、意義ある展示会になったと思っております。

「昭和は遠くなりにつけ」とは云うものの、便り、遺品、数多くの資料や写真等を観るにつけ、人々の村づくりへのエネルギーや命の尊さを改めて感じさせられて、目頭を熱くしたのは私だけではなかったのではないでしょう。

こうした振興会事業には、多くの皆様に積極的な協力をいただきました。そのことで多くの皆様の心を動かすことができたと思

っております。心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

過日、ある先輩から「すりこ木」の精神についてのお話を受け、改めて意を新たにしたいところです。

「身を削って人様に役立つすりこ木の心を知れ！」と。

会長としては今だその域に達していませんが、その精神で振興会の根本に意を向け、今年も事業展開していく所存です。

昨年は、猛暑による水不足などが目立った年でした。増沢ダムも例外ではありませんでしたが、番水制度で無事乗り切ったようです。今年も、猛暑予報が出ており心配されますが、あの広大な森が豊富な水を蓄えてくれることを期待したいと思

います。
今年一年皆様にとって穏やかな年でありし、念頭にあったの挨拶といたします。



▲衣川中学校1年生19人が、12月17日（水）衣川郵便局を訪れ装飾しました。

